

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800068		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム青笹		
所在地	〒028-0503 岩手県遠野市青笹町青笹11-3-11		
自己評価作成日	令和3年9月22日	評価結果市町村受理日	令和3年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍において制限されることも多く、例年の通りには行えていないが近隣の保育園、小学校などとの交流は今後も継続していく。前年度から、ボランティアの受け入れに力を入れてきたことで、地域住民の方との関係性はより良くなった。面会制限などの影響もあり、受け入れ出来ないことも多くあったが、受け入れ出来ますかと地域の方から問い合わせただけようになった。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年で開設から10年となる事業所は、農村風景が広がる遠野市青笹地区の中心地にあり、近隣には地区センターや保育園、小中学校、交番があり環境的に恵まれている。コロナ禍のために、理念の一つである地域との交流活動が難しい状況が続いてきた中において、広報として「かわら版」を地区の世帯に全戸配布するなどして様子を伝え、地域からの理解が進んでいる。また、看取りについては、市内の複数の協力医との連携を確保する中で、その取り組みを重ね職員の経験値も向上してきており、家族等からの評価も高まっている。1階の小規模多機能ホームやサービス付高齢者施設とは、利用者自身や行事、避難訓練等で交流と連携が行われており、事業所の運営にとってもプラスとなっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内ホール、リビングに掲示し業務前に個々で確認し一日のスタートを切ることを心掛けた。月一回行うケア会議でも確認し、理念に基づくケアが出来るよう検討した。	従前の理念を、昨年に全職員で話し合っって新たに作成した。「和」「縁」「楽」をキーワードとして、和やかで楽しく地域との縁を大切にすることを意識している。ホールでの掲示の他、職員のネームプレート裏面にも添付し、毎月のケア会議で理念に沿ったケアができていないか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校や保育園の運動会など座席を用意してくれるなど配慮していただき応援に出向いていたがコロナ禍において2年程交流出来ていない。状況に応じて、保育園児がホームに出向いてくれ、交流は切らさないようにしてくれていた。	コロナ禍のために十分な地域との交流ができない状況にあるが、事業所の様子を少しでも知ってもらえるよう、地域向けの広報誌を青笹地区の全戸に配布している。隣接の保育園から園児が来訪して鹿踊りを披露してくれたり、地域の婦人会が草取りや窓ふき等のボランティアで協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域と協力し、介護セミナーを計画予定していたがコロナ禍にて開催出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防対策で、関係者以外の立ち入りを禁止しているため、運営推進会議を開催出来ていない。	委員として行政区長や民生委員のほか、保育園、小中学校、警察等の関係者も参画しており、地域との連携を特に重視している。コロナ禍のため、昨年からは開催できない状態になっている。	運営推進委員はバランス良く選任されており、コロナ禍にあっても、普段の連携を図ることを期待したい。例えば、書面開催とし、会議資料送付のうえで意見等の提出を求める方法も考えられる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染予防対策で、関係者以外の立ち入りを禁止しているため、運営推進会議を開催出来ていない為、市町村担当の来所がないが、必要に応じて管理者または、ケアマネが窓口に出向くようにしている。	運営推進会議を開催できないため、定期的な市職員の来訪はないが、事業所の近くに市の機能がいった「福祉の里」があり、日常的に市の介護保険担当や地域包括支援センターとの連携が図られている。コロナ関連ではマスクや消毒液などの配布も受けている。また、生活保護受給者の担当ワーカーとの連携も取られている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画にも身体拘束を取り入れている。また、担当部会がおおむね3カ月に1回の会議を開催している。	身体拘束廃止に関する指針は作成済みであり廃止宣言も行っている。委員会は、事故対策委員会と共にほぼ毎月開催されている。スピーチロックに関することを含め、職員自身の気づきに繋げることなどを目的に、職員アンケートも実施しており、職員会議でも良く話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	言葉遣いなど気になることがあった際は、ヒヤリハットを提出し会議などで注意喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービス開始時点から数年先を見据えてはなしたり、市町村に相談する事もある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回の契約時や契約書の変更があった場合は面談にて説明しているが、遠方のご家族には電話での説明後郵送している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉を会話形式で記録し、ご家族からは面会時や電話連絡の際に意見など聞き取りして、直ぐに反映出来る事は会議等で話し合っている。また、事業所単位で出来ない事は、本社に報告している	約半数の利用者が意見等を話してくれ、外出等の要望が出されている。外出の要望には職員がなるべく対応しており、利用者の中には1階の小規模多機能センターに案内すると満足した様子の方もいる。家族には隔月の広報と、毎月の担当職員のお便りを送付して利用者の様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や職員会議、フロア会議など活用し意見交換したり、情報共有し運営に活かす努力をしている。	職員会議は小規模多機能ホームと合同で、ケア会議はグループホーム単独でそれぞれ毎月開催し、その席で職員の意見を把握している。毎日の申送りの際も含め、職員からはケアの個別的な意見や設備の補修などの具体的な意見が良く出されている。	

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社役員が週に1度は訪問し、職員の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に申し込み参加出来るようシフト調整してくれている。 施設内研修も、各部会持ち回りで担当し開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍という事もあり実践、開催出来ない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケース記録に利用者様の言葉を会話形式で記録することで思いを知り、職員間で情報共有し、本人の意向やご家族の意向に寄り添えるよう努力し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問診療等の報告だけでなく、必要物品の補充など職員から連絡し、近況なども伝えるようにし、ご家族の話も聞くようにしている。その他、毎月、月まとめをお送りし日々の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問診療や訪問薬剤管理指導等も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に応じ、出来る事をプランに取り入れ、職員と一緒に取り組んでいる。食器拭きや洗濯物たたみ、畑からの収穫等。		

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、月まとめを送付し利用者様の様子を伝えている。受診等の対応も協力していただき、ご家族とご本人の関係を断ち切ることをしないよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会など制限されることが多かったが、墓参りにお連れしたり、ドライブで利用者様の住んでいた地域にお連れしたり出来る事を計画した。地域の床屋さんに来所していただき、散髪していただくことで馴染みを切らさないように支援している。	コロナ禍の影響で外出機会が大きく減少しているが、1階の小規模多機能ホームで知り合いと会っている方もいる。散髪で訪れる理容師が新たな馴染みとなっている。希望に応じて、墓参りや馴染みの産直へのドライブ等の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士の座席配慮したりしている。そうした上で、9名ほとんどの利用者様が関われるように同じ時間を過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになってからのサービス終了の事が殆どであるが、その後もボランティアで来て下さるご家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に利用者様の言葉を会話形式で記録に残し、情報共有することでケアプラン作成に役立っている。	言葉で思いや意向を表現できない方については、その表情や仕草などから汲み取るように配慮しており、その内容は会話形式で記録して職員間で共有している。帰宅願望の強い方でも、1階の小規模多機能ホームに出かけることで納得してくれることも多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から聞き取り及び入居前のフェイスシートなどから情報を得たり、利用者様との会話から読み取る工夫をし、情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や身体状況など記録し、気づきを基にケア会議などで情報共有しケア内容を確認している。会議を待たずミーティングで対応することもある。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや日々の関わりから課題を見つけ、カンファレンスを行ってプランを作成している。	ケアプランは作成担当であるケアマネが作成し、職員参加のカンファレンスにおいて検討のうえで決定している。プランの見直しは6か月毎に行う場合が多くなっている。モニタリングは主に居室担当が行い、全職員によるケア会議で意見等が出されて検討されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、会話形式で記録するようにし、ケアの統一を図れるようケア会議で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間に捉われることなく、利用者様の気分や状態に応じ柔軟に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との交流や外出もできていないが、併設施設の小規模多機能が地域資源となりお互いに交流している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名中5名が訪問診療を受け、4名はご家族様対応にて受診している。受診時には日々の様子をメモにしご家族様からDrへ報告してもらっている。本人の希望があれば歯科受診にもお連れしている。	多くの利用者が入居前からのかかりつけ医を継続しており、5人は遠野市内三つの医療機関の訪問診療を利用している。他の4人は家族が付添って通院しているが、医師の求めで職員が同行する場合もある。看護業務には非常勤の看護師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との連携は図れている。訪問診療や受診についても看護職が率先して対応してくれ、薬の管理も徹底している。緊急時の連絡体制も整えており、夜間についても電話にて指示を出してくれたり、駆けつけてくれている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供や様子など電話ではあるが 稔るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化及び看取り介護に関する指針の説明は行っている。ご家族様の意向は状況に応じ何度も聞き取りし支援している。	入居時には重度化した場合の対応や看取りの取り組みについて説明し了解を得ている。看取りについては、市内のかかりつけ医との医療連携が図られており、これまで多くを経験し今年も1人を看取っている。重度化した場合は、特養等に移る方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前年度、今年度において救命救急講習を開催出来なかった。緊急や急変、看取りケアの際の連絡先や連携方法などは、その都度確認し対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難経路の確認や方法を身につける努力をしている。	立地場所は市のハザードマップでは浸水や土砂災害の想定地域になってはいない。年2回の避難訓練を実施し、そのうち1回は夜間想定訓練となっている。大雨の際は2階にある当ホームに留まることとしているが、夜間の火災時には2階からの屋外避難が必要であり、夜勤職員での対応が課題となっている。	夜間での2階からの避難には困難が伴うため、近隣住民の協力が必要と思われる。消防の指導を得ながら、地域の協力を募る努力を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックや権利擁護の研修も取り入れ、利用者様の尊厳を損なわないようケアすることを心掛けている。言葉かけや対応に問題が見られたときはヒヤリハットを提出することで注意喚起している。	プライバシーに配慮し尊厳を大切にする介護を重視しており、職員相互が講師を務める研修を取り入れるなど、注力している。特に排泄支援や入浴介助においては、ドアを開け放しにしないとか、衣服の希望に沿った対応を行う等、利用者の尊厳に配慮している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認しながら思いを実現出来る支援を心掛けている。入浴日であっても入浴の気分であれば調整したり工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出することを拒否する方もいらっしゃる。利用者様のペースに合わせ、歌いたいときは歌う、踊りたいときは踊るなど、利用者様がやりたいことをしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意見を尊重しながら、季節に見合った服装を提案したり、衣替えの時は、ご家族にも協力してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後、洗った食器を拭いてもらったり、テーブルを拭いたり出来る事を職員と行っている。畑で採れた枝豆を取ったり、しその葉を取ったり、とうもろこしの皮を剥いたりといったことも行っている。	主菜は委託先から配送され、職員はご飯とみそ汁を作っている。利用者は食後の下膳や食器拭きなどを手伝っている。ホームの畑では職員が野菜を作っているが、皮むきや豆もぎは利用者も手伝っている。やきもちなどの郷土食はおやつとして作り、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄チェック表を活用し、食事摂取量、水分量を把握し排泄や身体状況などの観察をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の出来るところまでは見守りで行い、その後足りない部分の介助を行っている。利用者様に応じ、舌ブラシなども使用している。夕食後に義歯を洗浄剤に浸け管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他に、個々の排泄パターンに合わせて誘導している。自立されている方も、汚染確認は行っている。	排泄チェック表を見ながら、個々のパターンに合わせて声掛けと誘導を行っている。リハビリパンツ使用者が多いが、夜間には2人がオムツを使用している。失敗した場合には、尊厳を損なわないよう、さりげなく声掛けするよう配慮している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を確認し適宜水分補給に努めている。本人に腹部のマッサージを促したり、廊下を歩くなどの運動、座っていても出来る運動など体を動かすことを心掛けて促している。個人で、ヨーグルトを購入し便秘予防している方もいるが、ほとんどが下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を設定し対応しているが、気分が優れない、体調不良など確認した際は時間変更や曜日変更など調整している。入浴拒否される利用者様(男性1名)には、毎日夕食後に入浴を促し、本人の希望があれば入浴してもらっている。	入浴は週2回を基本とし、希望があれば入浴日以外でも対応することがある。個人ごとに3枚のタオルを使用し、清潔を心掛けている。入浴を嫌がる傾向のある利用者に対しては、毎日夕方に声掛けする等工夫して対応している。職員と1対1となる時間であり、入浴時の会話を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に居室を行き来し、休みたい利用者様は自由に休んでいる。夜間は、身体状況など考慮し、オープンオムツ使用で休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイリングし、いつでもすぐに確認できる状態にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話から好きな物や事柄など見つけ、利用者様が生き生きと笑顔で会話出来るようコミュニケーションの取り方を工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くの保育園付近まで散歩したり、出来る範囲でドライブしたりしている。帰宅願望のある利用者様も気分転換で外にお連れしている。	コロナ禍にあって外出支援の機会が大きく減少しているが、天気の良い日には施設周辺の小学校や保育園などへの散歩を楽しんでいる。1階の小規模多機能ホームに向くことも外出の一助となっている。紅葉の時期となるので、少人数での紅葉見物や産直ドライブの再開を検討している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム青笹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所の金庫預かりの方がほとんどである。1名個人で財布を持っているが、受診時家族の見守りの基で、自分で支払いしている。散髪の際も職員の見守りの基、支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話することはないが、職員がご家族に用事があり電話した際に本人と会話させることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビングと分け配慮している。季節や行事ごとに装飾も工夫している。	ホールにはテレビを囲むようにソファーやテーブルが効率良く配置されており、ホールからは各居室が見渡せるよう配慮されている。ホールや廊下の壁面にはハロウインの飾りなどがあり季節を感じさせる。ホールでは利用者が思い思いの時間を過ごすとともに、職員とのゲームや作品作りなどで楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際や、日常の座席など利用者様の関係性をみながら配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類や小物など着慣れた物や使い馴染みのある物を持ってきてもらっている。位牌をお持ちの利用者様もいる。	2階にあるため、居室からの眺めが良く日当たりも良好である。掃除の行き届いた部屋にはエアコンとベッド、クローゼット等が備付けられ、利用者は衣装ケースや家族写真、位牌等を持ち込んでいる。利用者毎に行事での写真や自分の作品なども飾って、居心地良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掲示物などで使い方を示したり、個々の居室入り口に名札を作ったり、居室内には誕生日カードなど個人の写真を飾ったりして工夫している。		